

令和6年度 アオコ情報（新川6）

9月12日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度^{※1}は、神天橋でアオコレベル3相当、新港橋でアオコレベル4相当^{※2}でした。
- アオコが発生している地点では、植物プランクトンであるミクロキスティスが見られました。

1 新川のアオコレベル

- 真鍋橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）
- 城北橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）
- 神天橋でアオコレベル3相当（フィコシアニン濃度： $1971 \mu\text{g/L}$ ）
- 新港橋でアオコレベル4相当（フィコシアニン濃度： $2405 \mu\text{g/L}$ ）

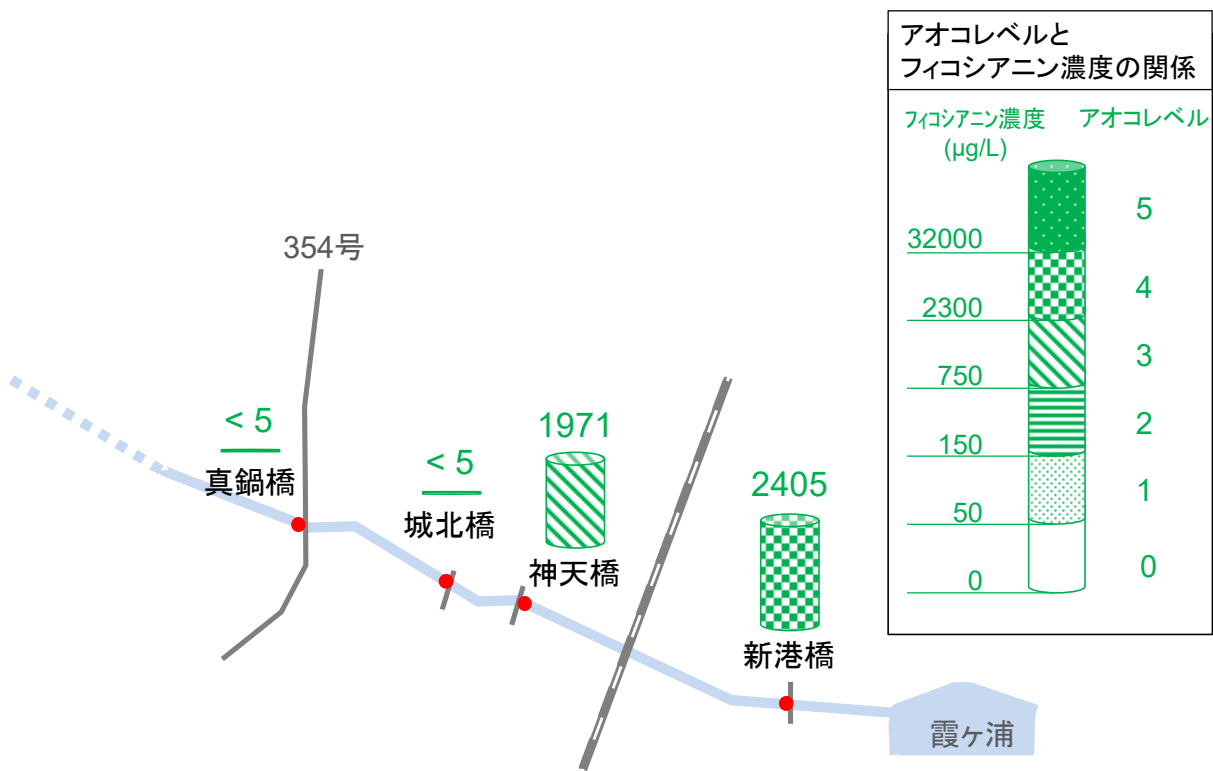


図1 フィコシアニン濃度の分布

※1 フィコシアニン

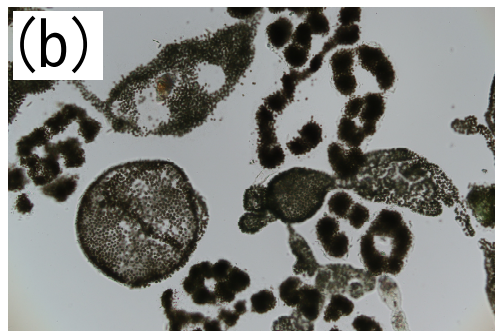
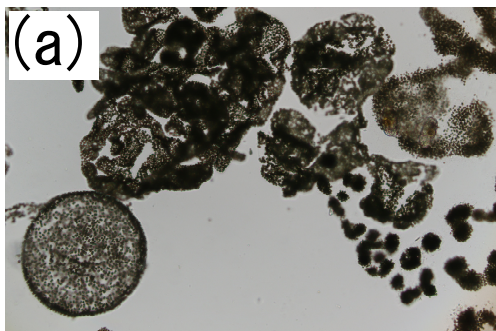
アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP：<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で $50 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル2で $150 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル3で $750 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル4で $2300 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル5で $32000 \mu\text{g/L}$ 程度です（小日向ら、2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

2 アオコを形成している植物プランクトン

- 神天橋 (アオコあり) : ミクロキスティスが見られ(a)、群体を形成していた。
- 新港橋 (アオコあり) : ミクロキスティスが見られ(b)、群体を形成していた。



※(a) 及び (b) とともに、点のように見える一粒一粒がミクロキスティスの細胞

● 調査結果の詳細

表 調査結果

	新 川			
	真鍋橋	城北橋	神天橋	新港橋
採水時刻	9月12日	9月12日	9月12日	9月12日
	9:45	9:55	10:05	10:20
水温(°C)	29.4	29.5	30.5	33.5
pH	7.7	7.8	8.1	9.6
EC	26	26	27	27
透視度(cm)	32	41	10	6
フィコシアニン(μg/L)	<5	<5	1971	2405
クロロフィルa(μg/L)	11	12	678	875
TN(mg/L)	1.9	1.6	9.0	11
TP(mg/L)	0.10	0.09	0.32	0.66

【アオコレベル】

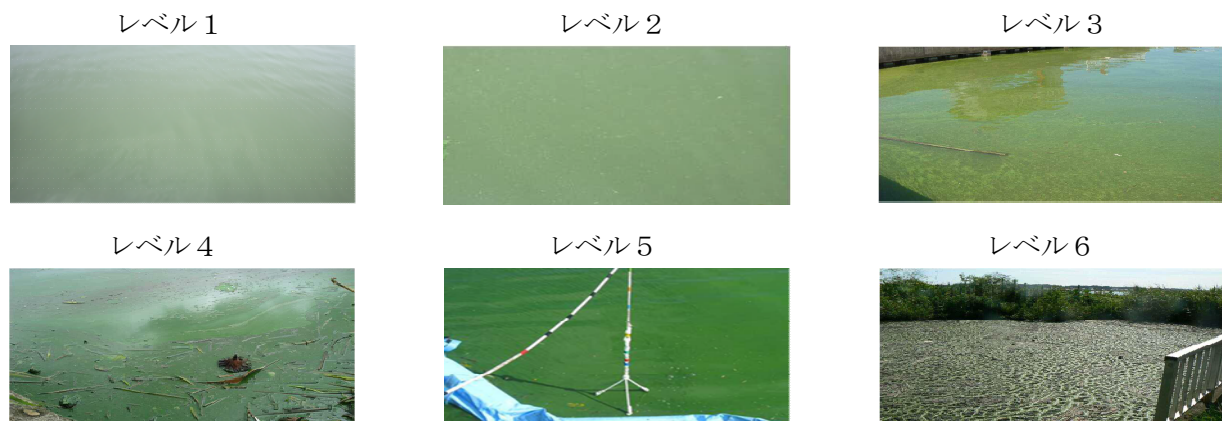


図2 アオコレベル